



○師走Ⅱ

学生の今年の授業も今週で終了です。もうすぐ年が暮れ新年が始まります。あっという間と感じるのは自分が年を重ねたせいかもしれません。今年4月のYIC 保育&ビジネス専門学校入学式で私は式辞の中で「2年という期間は大変短いけれども時間が過ぎていく速度は誰にも平等です。上手に使って充実した期間を過ごしてください。」という意味のことを話しました。若者にとってのこの1年は短かったのか長かったのか、その人によって感じ方は違うと思いますが、少なくとも私が感じる速度よりは長い(遅い)のではないかと思います。なんといっても日々たくさんの学びを吸収しているわけですから、若者の生活は“濃い”ですね。

歳末ですが、私はこの1年を振り返るよりは将来を見ていきたいと思います。ITビジネス学科・こども学科の2年生は卒業し、社会に巣立っていきます。クラスで共通の学びをしてきた仲間も就職先の仕事内容はそれぞれに違うだろうと思います。期待と不安、不安の方が多いと思います。しかし私は期待よりも不安の方が力になってくれると思っています。その理由を少し具体的に述べてみましょう。

あることに期待して入る(入学・入社など)と「何かいいことがあるだろう。」「どんなことをしてもらえるだろう。」という受け身的な気持ちが前に出てくるように思いませんか?期待という前向きな気持ちをもつことも大変よいことですが、いいことがなかったり何もしてもらえなかったりすると、「期待はずれ」の気持ちがどうしても芽生えてしまいます。

それに対して不安な気持ちがあるときは何もせずに考えてばかりいると押しつぶされてしまいますが、不安を振り払うように本を読んだり勉強をしたり、何か“ものごと”があるときにあらゆる角度から内容の予想をしたり、その下準備をしたりしておく、困ったことに出会っても「想定内」と受け止めることができます。そしてその“ものごと”を成し遂げたときには大きな達成感を味わうことができます。不安を動く(働く)力に変えるといいですね。

新しい年に向けて、期待よりも不安を奨励するような不思議なたよりになりましたが、2年生があと3か月で卒業することを思っていたら上記のようなことを考えました。ついでに記述するならば、この3か月が社会人への準備期間として大切なときだということを付け加えたいと思います。学生のみんなはどう過ごす(使う・活用する)のかな?

皆様今年も大変お世話になりました。来年もよい年となりますように。どうぞよろしく願い申し上げます。

つづやき

このたよりが今年の最終号となります。用紙の節約のため最近では2号分を裏表で輪転機使用の印刷としています。記事の内容によっては発行の時期が少しずれたことがあったかと思いますが、ご了承ください。また、写真も鮮明ではないですが、カラー版はHPにてご覧ください。

次号からは平成30年(2018年)という日付になります。平成の歴史も30年になるんですね。始まった昭和64年、印象に残っていることは小淵さんの掲げた「平成」という文字と、中学3年生の担任だった私の高校入試事務の元号変更作業です。すべての書類の「昭和」を「平成」に訂正する作業が始まりました。この年の1月にはそれ専用のスタンプが日本全国たくさん作られました。今はもう当たり前前の平成も再来年には変わる予定です。感慨深いです。

